



新潟中越
地震

断層4つ目 京大など
分析

新潟県中越地震は、これ可能性が高く、活発な余震まで判明していた三つの断層活動につながっている層に加え、もう一つ別の断層もずれていたとみられることが、京都防災研究所や九州大などの研究グループの分析でわかり、十五日の地震予知連絡会で報告された。これら四つの断層以外にも、周辺では複数の小さな断層が割れていると直交する位置だという。

この余震は同五時五十六分の本震(同6・8)と同六時三十四分の最大余震(同6・5)の間に発生した。この結果、震源域には本震、六時十一分の余震、最大余震と、二十三日にずれた三つの断層面に加え、二十七日の余震(同6・1)の断層面が確認され、少なくとも四つの主要断層が動いたという。飯尾能久・京大防災研教授は「余震が起きた範囲などからみて、これら以外にも小さな断層が複数関与しているようだ。今後、警戒は必要だが、これらの断層がさらに大きく割れる余地はなく、規模の大きな余震の可能性は減っている」と話している。